

検討事例1

【発明該当性】

「宿泊施設の評判を分析するための学習済みモデル」

(特許・実用新案審査ハンドブック 附属書B 第1章 事例2-14)



〔請求項1〕

宿泊施設の評判に関するテキストデータに基づいて、宿泊施設の評判を定量化した値を出力するよう、コンピュータを機能させるための学習済みモデルであって、

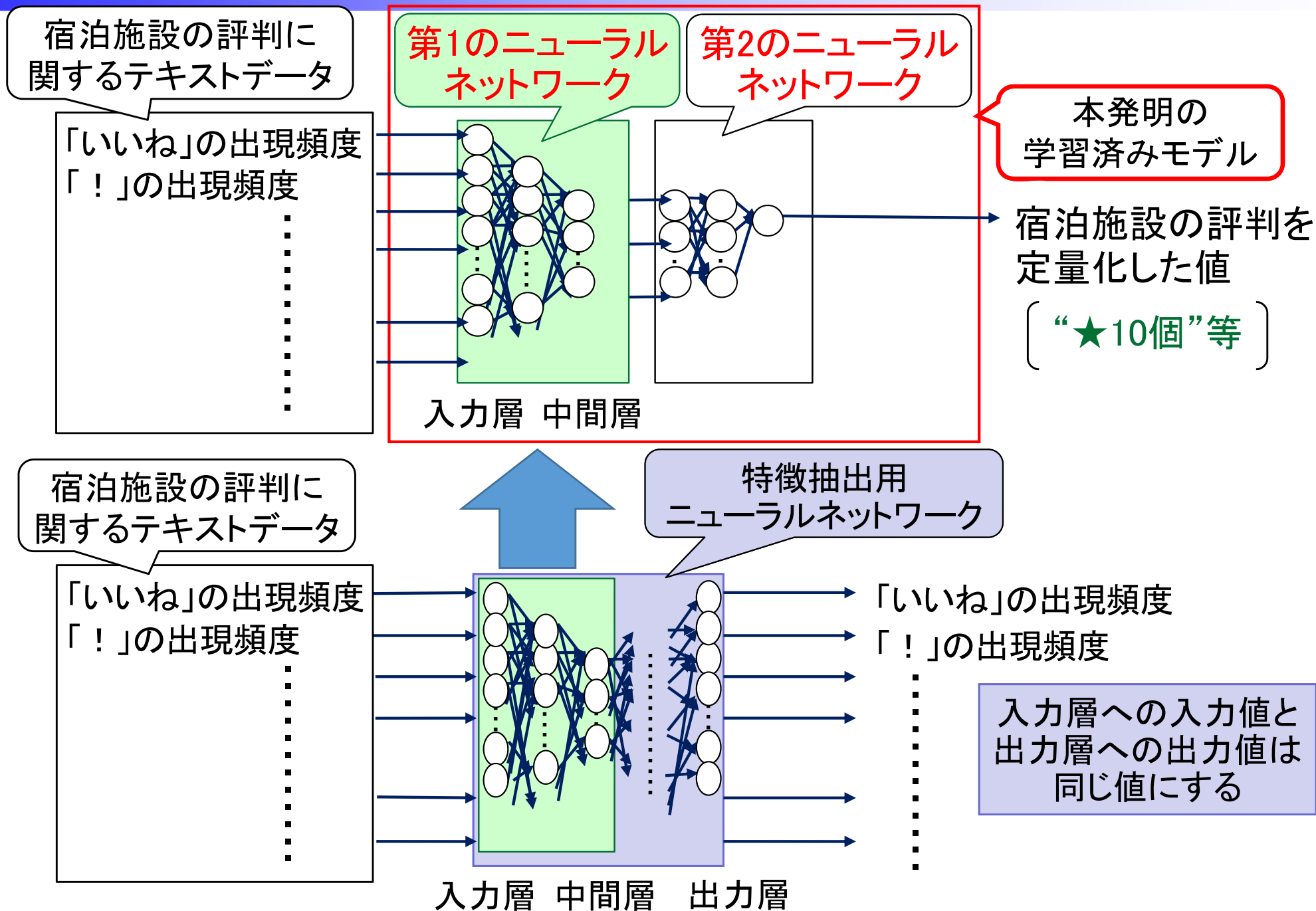
第1のニューラルネットワークと、前記第1のニューラルネットワークからの出力が入力されるように結合された第2のニューラルネットワークとから構成され、

前記第1のニューラルネットワークが、少なくとも1つの中間層のニューロン数が入力層のニューロン数よりも小さく且つ入力層と出力層のニューロン数が互いに同一であり各入力層への入力値と各入力層に対応する各出力層からの出力値とが等しくなるように重み付け係数が学習された特徴抽出用ニューラルネットワークのうちの入力層から中間層までで構成されたものであり、

前記第2のニューラルネットワークの重み付け係数が、前記第1のニューラルネットワークの重み付け係数を変更することなく、学習されたものであり、

前記第1のニューラルネットワークの入力層に入力された、宿泊施設の評判に関するテキストデータから得られる特定の単語の出現頻度に対し、前記第1及び第2のニューラルネットワークにおける前記学習済みの重み付け係数に基づく演算を行い、前記第2のニューラルネットワークの出力層から宿泊施設の評判を定量化した値を出力するよう、コンピュータを機能させるための学習済みモデル。

検討事例1：請求項に係る発明の概要



[発明の詳細な説明]

本発明の学習済みモデルは、人工知能ソフトウェアの一部であるプログラムモジュールとしての利用が想定される。

本発明の学習済みモデルは、CPU及びメモリを備えるコンピュータにて用いられる。具体的には、コンピュータのCPUが、メモリに記憶された学習済みモデルからの指令に従って、第1のニューラルネットワークの入力層に入力された入力データ(例えば形態素解析によって、宿泊施設の評判に関するテキストデータから得られる特定の単語の出現頻度)に対し、第1及び第2のニューラルネットワークにおける学習済みの重み付け係数と応答関数等に基づく演算を行い、第2のニューラルネットワークの出力層から結果(評判を定量化した値)を出力するよう動作する。

- AI関連発明は、コンピュータソフトウェアを利用

⇒ 次の2ステップで判断

1. 全体として自然法則を利用しており、「自然法則を利用した技術的思想の創作※1」と認められるか
2. ソフトウェアの観点に基づく考え方により、「自然法則を利用した技術的思想の創作」と認められるか

※1：日本の特許制度では、「発明」を「自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度のもの」と定義

- 上記の要件を満たす「プログラム」は保護対象

⇒ 請求項の末尾が「プログラム」以外の用語※2であっても、明細書及び図面の記載並びに出願時の技術常識を考慮すると、請求項に係る発明が「プログラム」であることが明確な場合は、「プログラム」として扱われる

※2：例えば、「モジュール」、「ライブラリ」、「ニューラルネットワーク」、「サポートベクターマシン」、「モデル」

○ 請求項1は、発明に該当する

[説明]

請求項1に係る学習済みモデルは、請求項に記載された情報処理を行うようにコンピュータを機能させるためのものである。

また、発明の詳細な説明も考慮すると、請求項1に係る学習済みモデルは、末尾が「モデル」であっても、「プログラム」であることが明確である。

そして、請求項1の記載から、宿泊施設の評判を的確に分析するという使用目的に応じた特有の情報の演算又は加工が、具体的手段又は具体的手順によって実現されていると判断できる。

そのため、請求項1に係る学習済みモデルは、使用目的に応じた特有の情報処理装置の動作方法を構築するものであって、自然法則を利用した技術的思想の創作であり、「発明」に該当する。